

## 〔 編 集 後 記 〕

第93巻3号では、最終講義1編、症例報告1編、エッセイ1編、千葉医学会例会報告2編、雑報1編、Open Access Paper (OAP) 要旨 (日本語) 1編、OAPには英文原著論文1編を掲載しています。

今回の最終講義は、2017年3月に退官された病原細菌制御学の野田公俊先生の「ミクロの世界のトキシンハンター－細菌毒素の無毒化プロジェクト－」です。先生が細菌性トキシンに興味をもたれ、先生の熱意で恩師と出会い、約40年にわたる研究に結びついたことに感銘を受けました。ご存じの方も多いと思いますが、野田先生は、本雑誌の編集委員長を1999年1月から2015年12月までの17年間務められました。私も編集委員として2007年から先生と一緒に編集に携わっておりました。先生は編集会議で一人ひとりの意見をまとめられ、また会員の先生方から寄せられたご意見なども尊重し、少しでもより良い雑誌の編集に注力されておられました。編集会議中の先生のご発言

はウイットに富み、その穏やかな話し方も忘れられません。実は、現在皆さんにご覧いただいている雑誌の体裁は、2011年発行の第87巻1号からです。野田編集委員長のリーダーシップのもと数回の編集委員会を経て実現しました。B5判をA4判にし、表紙も刷新されました。表紙には、シンボルカラーである臙脂色を基調に残し、千葉大学医学部にゆかりのある写真を用いています。そこには千葉医学の伝統の継承と発展の思いが込められています。詳しいことは第87巻1号の編集後記「新しい表紙に込めた私たちの思い」で野田先生が書いていらっしゃいますのでお読みいただくと幸いです。千葉医学会のホームページ (<http://www.c-med.org/>) からご覧になれます。長年にわたり本雑誌の編集に携わってこられた先生に対し、編集委員の一人として心より敬意を表し、感謝申し上げます。

(編集委員 松江弘之)